

一般質問

12月定例会



伊藤 好晴 議員

Q 冬期間の通学を安全に

頓原小・中学校通学路のロードヒーティング廃止に、保護者から不安の声が聞こえる。ロードヒーター廃止ありきで進んできたのではないかとという疑問も寄せられ、それに応える必要がある。

ロードヒーティング事業は、頓原中学校新築の際、冬期間の子どもの安全確保のため設置された。道路構造令(※1)の勾配規定を大幅に上回り、例外規定の上限に迫る道路であり、最善の方策と思う。

旧頓原町では、経費削減のために中国電力と交渉するなどの努力がされたが、山碕町政のもとでも努力されたのか。

除雪と凍結防止剤散布で安全が確保できるのか。救急車・警察車両の通行も確保できるのか。

住民説明会で、この冬はロードヒーティングを行い、時期を見て積雪時の実証実験を行うことが約束された。どう対応するのか。

子どもたちの命に関わる問題であり、町長・副町長・教育長は、実証に立ち会い、歩いて

みるべきと考えるがどうか。

(※1) 道路構造令とは、道路を新設または改築する場合における道路の構造の一般的技術的基準を定めた政令



通学路の急な坂

A 現場検証は公開で

町長 山碕 英樹

道路改良(拡幅と曲線半径の改善)と除雪・凍結防止剤散布で安全を確保する。これにより、電気代等の維持費が節減される。

この道路専用で、出来るだけ性能の良い除雪車配置を考えている。早朝除雪の際にも凍結防止剤を散布し、通学時間前に終了する。こうしたことで緊急車両の通行も確保できる。

1月中旬から2月上旬の閉校日に検証したい。決定次第、学校・保護者などに周知する。最後に三役ともに実証に立ち会うと答弁した。



Q 農業廃プラ推進を

プラスチックによる海洋汚染が大きな問題になっている。そういう中、農林水産省は廃プラスチック排出規制に乗り出した。生分解性マルチ(※2)の普及である。

生分解性マルチは、環境保全には有効だが、価格が高い。普及には、行政の力が必要と思う。廃プラスチックの処理に補助をしているように、生分解性マルチ導入に対しても助成制度を導入し、農家が使いやすい環境をつくることを提案する。

A 広域で対応したい

町長 山碕 英樹

大切な視点なので、雲南圏域での取り組みにしたい。雲南農業振興協議会へ提案し、議論する。

(※2) 生分解性マルチは、土中の微生物によって水と炭酸ガスに分解される

一般質問

12月定例会



景山 登美男 議員

Q 防災の準備をしっかりと

①いつ起こるかかわからない災害に対して、住民の安全な避難などを確保するには、行政が行う「公助」だけでは難しく、自分の身は自分で守るという「自助」と、近所や地域の協力である「共助」の取り組みが重要になっている。

災害対策基本法では、自力で避難することが困難な人を

避難行動要支援者名簿に登録しておく、その情報を消防・警察・民生委員・社協・自治防災組織などに提供し、災害時の避難支援に活用することになっている。

一番確実な方法は、要支援者を支援する人をあらかじめ決めておく、避難行動要支援者名簿に支援者の名前を記入



避難訓練

しておくことであると思うがどうか。

②飯南町地域防災計画では避難場所と避難所が定められているが、避難場所は自治会や組単位で定められている。避難の途中に隣の自治会や組の避難場所がありながら、わざわざ遠い避難場所に行かなければならないとか、橋を渡らなければならぬところ、避難場所がある場合がある。

地域の区分にこだわらず、実態に即した避難場所の指定がでないか。

③先の台風により千葉県を中心に大規模な停電が発生したが、その際ラジオ放送が大変有効であることが実証された。

このたび、エフエム山陰と山陰放送から、島根・鳥取両県の自治体と協定を締結したうえで、災害時におけるラジオ放送を利用した情報の提供に取り組む意向があるとの報道があった。町内でこの2局の放送を受信するのはかなり困難だ。

この2局の放送を聴くことができるよう、強い要望活動をするべきではないか。



町長 山碕 英樹

A 準備は大切

①非常時において速やかに避難行動に移るためには、情報提供者のみで対応することには限界がある。あらかじめ支援者を決めておくことは大変有効であり、名簿の作成を進めたい。

②飯南町地域防災計画の見直しの中で、自然条件を考慮するとともに、地域の実情と地元の方々の意見もいただきながら、実態に即した避難場所を指定したい。

③災害時に停電となった場合に、ラジオ放送は大変有効であるので、エフエム山陰と山陰放送の良好な受信について研究してみたい。